

“生活する”主人公として

夏休みです！ 幼稚園の子ども達は、「えーようちえん、おやすみなのか？こんどはいついくの？」という反応が多いでしょうか。学校へ行っている子ども達は圧倒的に「やったあ～！！なつやすみだあ～」でしょう。そして、家で子ども達とこの40日間を過ごす、(主に)母たちは「お弁当作りからは解放されるけど・・・ふ～、疲れるのよね夏休み」そう、明日からは戦争です。まさに三食昼寝付きのわがままな王様たちと、四六時中生活を共にするのです。兄弟喧嘩もなく平和が保たれるのは何日でしょうか？考えただけでもうんざりしてきます。何を隠そう母としての私の夏休みが、まさにこれだからです。同士である母たちに、敬意を表すと共に心から同情してしまいます。

がしかし、そうも言うてはいられません。何とかしなければ・・・そこで提案です。

『子ども達を“生活する”主人公にする夏休み』

というのはいかがでしょう。なんだかまどろっこしい表現ですみません。簡単に言うと、子ども達を“三食昼寝付きのわがままな王様にしない”ということです。時間がたっぷりあるからこそ、忙しさや慌ただしさの中で、私たちが知らぬ間に子ども達から取り上げてしまっている子ども達の時間や、自分でやってみようとする意欲を子ども達に返しませう。一度、取り上げてしまっているのですから、突然「返す」と言われてもきっと子どもは戸惑うことでしょう。40日もあります。朝起きてから夜眠るまで、まず、私たちが一つ一つ丁寧に検証することから始めましょう。

私たちは「おはよう」とお互いにあいさつを交わしているでしょうか？

子どもは自分で着替え脱いだものを畳んでいるでしょうか？

食事の支度・片付けに子どもが家族の一員として活躍する場面はありますか？

トイレは、どれくらい自分で出来るようになっていっているでしょうか？

楽しく遊んだ後片付けは？

へえーふーんおもしろそう、やってみたい！という声が聞こえますか？

時間がないから、危ないから、面倒くさいことになるから(泣く・失敗する・かえって手がかかる)、かわいいからついついやってあげてしまうのです。でも、この機会に是非、やらせてあげてください。時間がかかる事も、一緒にやりながら共に過ごす時間を楽しみ失敗したら励まして。もしかすると、「初めて出来たよ！」の瞬間に立ち会えるかもしれない。「やったね、出来ちゃったね、すごいじゃない！」とたくさん褒めてあげられる。「そうか、出来るんだ。もうちょっとやってみようかな・・・」子どもの中に意欲が湧いてくる。生き生きと生活する子どもがそこにいる。家族の一員として、どんなに小さくても役割をもち、しっかりと自分の足で立つことが出来るようになることが、社会に出て行くための大切な土台になると考えます。やってもらって、整えてもらって、そこでどんなに上手にできたからといって、それは子どもの生きる力や意欲にはつながらない。ちょっと外にでてしまえば、出来ない自分がいることに子ども自身がすぐに気が付いて自信喪失です。やってみよう！という経験がそもそもなければ、もう一回という意欲も湧いてはこないのです。「子どもを、生活する主人公にすること」は私たちが親として大人として、どれくらい踏んばることができるかそれが分かれ道。私も楽しみながら頑張ってみます！くれぐれも、**ねばならない**ではなく、**たのしむ余裕**を忘れずに(自戒をこめて)